



Shinobu kurozumi

自転車の愉しみを

多くの人たちに

岡山駅から西へ約2km、高柳西町にあるサイクルセンター岡山本店は、戦前から三代にわたって続く老舗自転車店。店内には一般的なシティサイクル・子供用から、本格的なスポーツバイクまで600台以上が所せましと並び、特に最近人気のスポーツ車は、国産から欧米のハイスペックブランドまで充実した品揃えを誇り、確かな組立・整備技術もあいまつて、熱心なファンから支持を集めている。黒住しのがさんは、店頭での接客や、簡単な修理、会計事務まで取りしきりマルチに活躍する女性だ。

◎女性ならではの接客・アドバイス

エコジョーや健康志向が高まり、余暇活動の多様化などの要因もあり、スポーツバイクを楽しむ人は年齢・性別を問わず着実に増加中。そうした中で黒住さんは、女性ならではの視点や、ビギナーに優しい接客を何より大切にしている。「いわゆるマチャリとスポーツバイクとは、ベタ足の足の置き方、乗った時の姿勢や重心のかけ方、乗り降りの仕方ともまったく違いますから、初めての方にはひとつひとつアドバイスするように心がけています」と黒住さんは話す。そうしたお客様に対するきめ細かな心づかいが、同店の人気のヒケツと、いえるだろう。

◎長くつきあえる自転車店を目指す

またスポーツバイクは、安全性の面でも定期的な整備・調整が不可欠。それだけに同店では、お客様との長いおつきあいを重視する。「初心者ら

サイクルセンター岡山本店

黒住しのがさん

www.10oon.ne.jp/okayama/



たお客様がだんだん熱中していく姿を見たり、ツーリングのお土産を聞くのが楽しくて」と黒住さんは目を細める。また同店では、お客様同士が気軽に交流できる「毎週日曜日の「朝練」や、走行会も開催。さらに注目アイテム試乗会などのイベントで最新商品の情報発信も積極的に、好評を博している。

◎自らも自転車の愛好者として

黒住さんにオフタイムの趣味をたずねると、「最近では忙しくて時間が取れませんが、以前はスタンドグラスやトルベインにハマってました。今年はぜひダイビングにも挑戦してみたいですし、色々なことに興味が尽きません」とアクレシフに語る。また自らもスポーツバイクの愛好者として、毎週の朝練や全国の走行イベントなど積極的に参加する黒住さん。「遠征を迎えた時に、上下赤色のウズで自転車乗るというのが目標です」と笑う一方で、「自転車に乗ったことのない人、お客様と魅力を語ったり、アドバイスはできませんから」と話す。その言葉の通り、ユーザー視点に立った接客や商品提案を大切にしている同店。これまでも、そしてこれからも、熱心な愛好者の心を捉え続けるだろう。